

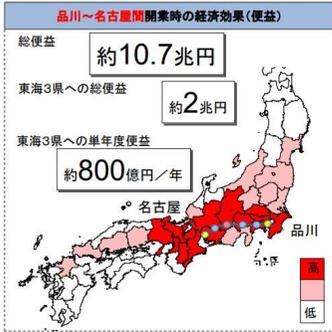
1 みえリニア戦略プラン（仮称）策定の趣旨

- リニアは品川ー名古屋間の先行開業と品川ー大阪間の全線開業の2段階での開業が予定され、それぞれの段階のインパクトを拡げる具体的な取組を検討
- 南北に長い県内を3つのブロックに分けて、それぞれの強みや特色を生かして重点的に展開するプロジェクトを「リーディングプロジェクト」としてとりまとめ
- 中間報告では、主に先行開業を見据えた取組を中心にとりまとめ

2 リニアがもたらすインパクト

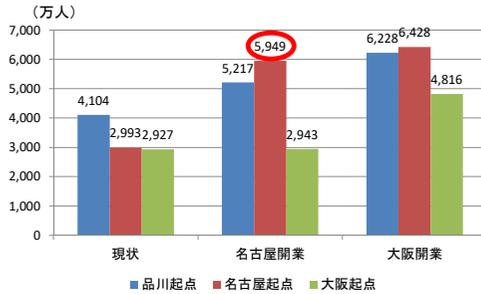
- リニアの先行開業による経済効果は約10.7兆円。名古屋起点の120分圏人口は三大都市圏で最大
- 品川ー名古屋間が40分で結ばれることにより、公共交通利用で品川からの120分圏域に含まれる駅は、桑名駅から松阪駅まで拡大
- この時間短縮による新たな生活スタイル・ビジネススタイル、人や情報の活発な交流や、ビジネス流動の活発化が期待
- 「リニア」と「鉄道・高速道路ネットワーク」の多重化・代替性の強化による災害リスクの分散が期待

図1 先行開業（名古屋開業）の経済効果



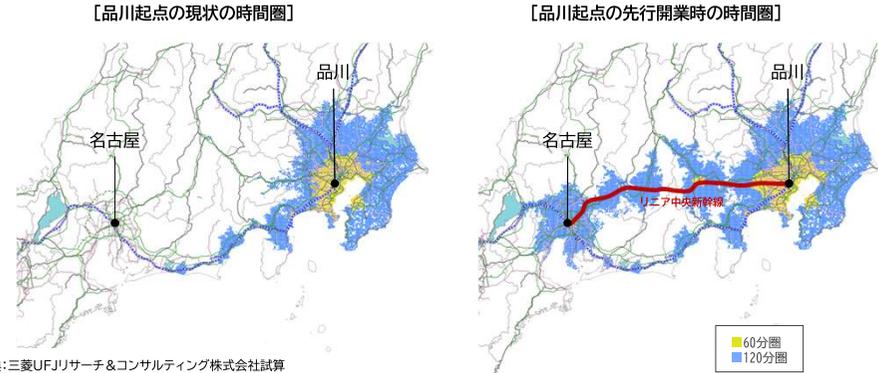
出典:三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社試算

図2 リニア開業による3大都市圏各起点の120分圏人口



出典:三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社試算

図3 リニア開業による品川起点の時間圏の変化



出典:三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社試算

3 リニアとともにめざす三重の姿

- 新たな玄関口から始まるこれからの時代に選ばれる三重となるために3つの姿を実現

①三重の豊かさを生かした新たなライフスタイルが創出されている

圧倒的な移動時間の短縮と先進的な技術により、三重の豊かさと大都市圏の多様さを手に入れるリニア時代の新たなライフスタイルを創出

②県内交通ネットワークの形成による観光・ビジネス交流が活発化している

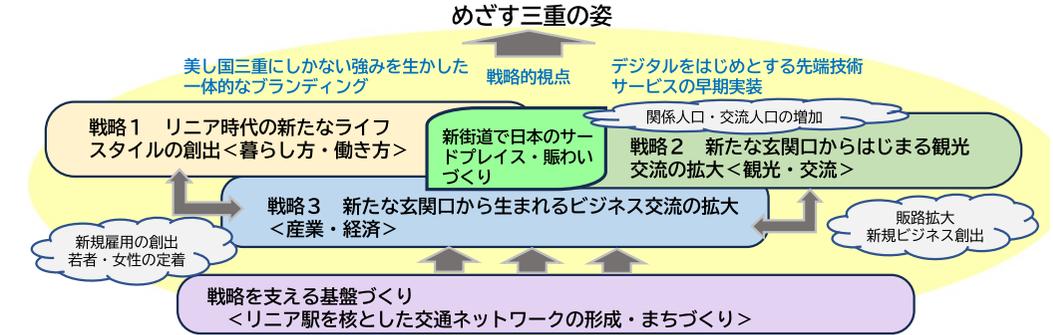
実用化が進む次世代交通に対応したリニア三重県駅と地域交通拠点とが効率的に結ばれ、県内外の観光・ビジネス交流が飛躍的に発展

③人々の「癒やしの空間」として存在感を示している

新たな玄関口の魅力と県内各地の豊かな魅力とが繋がることで、三重にしかない暮らしや、働き方、来訪スタイルを実現

4 めざす三重の姿に向けての3つの戦略

戦略の位置づけ 戦略の取組においては、行政、関係団体や交通事業者などさまざまな主体における状況を踏まえ、民間事業者の採算性の確保など、経営の自主性を尊重しながら、具体化に向けて検討を進めます。



戦略1 リニア時代の新たなライフスタイルの創出

現状と課題

- 三重県は大学進学者の約8割が県外大学に進学しており、若者の人口減少の要因の一つになっています。
- 高速交通がない三重県では物理的距離のハードルが高く、地方に住みながら大都市で働くといった柔軟な暮らし方・働き方はそれほど進んでいません。
- リニアとデジタルをはじめとする先端技術サービスの早期実装によって、三重県から流出することなく、住む場所と進学・就職の選択肢が広がります。
- 一方で、大都市圏への企業や労働力、居住者などの流出といったストロー現象が懸念されます。

図 県内高校を卒業(浪人含む)した大学進学者の地域別進学先

	全体	県内大学	県外大学		
			うち愛知県	うち東京圏	うち関西圏
R2年	7,985	1,751	6,234	2,996	1,556
	-	21.9%	78.1%	37.5%	19.5%
H31年	7,859	1,746	6,113	2,947	1,527
	-	22.2%	77.8%	37.5%	19.4%
H30年	7,877	1,720	6,157	2,973	1,524
	-	21.8%	78.2%	37.7%	19.3%
H29年	8,299	1,704	6,595	3,207	1,634
	-	20.5%	79.5%	38.6%	19.7%
H28年	7,969	1,618	6,351	3,082	1,611
	-	20.3%	79.7%	38.7%	20.2%

※文部科学省「学情基本調査」を基に(三重県教育委員会)県内高校を卒業した大学進学者の地域別進学先

※東京圏:東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県

※関西圏:京都府、大阪府、兵庫県、滋賀県、奈良県、和歌山県

※割合は、県内高等学校卒業生全体に対する割合を示す。

取組1 都市部の企業や大学への通勤・通学が選択可能な三重に

- ①リニアの速達性を生かした交通ネットワーク強化
 - リニア発着に合わせた定時性のある交通ネットワークの構築
 - 鉄道、高速バスなど複数交通モードにおけるリニア駅結節の強化
- ②快適なリモートワークが可能なサードプレイス環境の創出
 - 地域交通拠点周辺におけるコワーキングスペースや電源・インターネット接続環境、個室スペースの確保
 - デジタル技術を活用した新たな暮らし方、働き方に資する環境づくり

取組2 地域と多様な形で関わる人が増える三重に

- ①来訪者や住民など多様な人々が行き交う場の創出
 - リニア三重県駅や地域交通拠点(人々が行き交う県内各地の玄関口となる交通結節点)における民間投資が進む環境づくり
 - 大規模イベントや周年事業を契機とした誘客の推進
- ②海辺から山麓エリアまで揃う三重ならではの体験の提供と賑わい創出の仕掛けづくり
 - 潮干狩りから森林セラピーなど、三重の様々な自然に触れる機会のPR
 - 多彩な自然環境を生かした既存資源のリノベーションの実施
 - 農林水産業などの地域のお手伝いをきっかけにした企業と地域の関係づくり

取組3 県外からの移住希望者に選ばれるとともに定住が促進される三重に

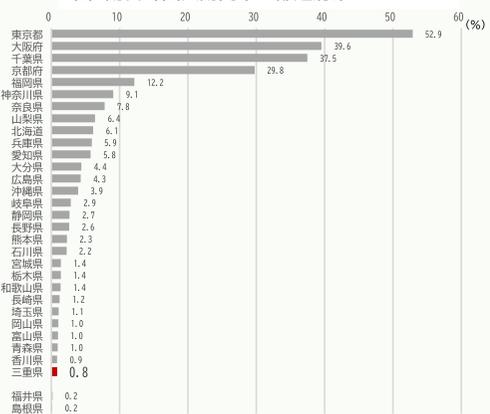
- ①リニアの速達性を生かした移住・二地域居住の促進
 - 三重の自然や街並みと共存する景観形成の促進やそのPR
 - 転職なき移住を支えるリニア通勤可能地域となることへの首都圏へのPR
 - SNSを活用した就職情報の発信
- ②移住・二地域居住を支える快適なリモートワークが可能なサードプレイス環境の提供
 - 豊かな自然環境を生かしたコワーキング施設やインキュベーション施設の整備
 - 既存のコワーキング施設やインキュベーション施設を活用した利用者同士が交流できる場と仕組みづくり
- ③県外からの移住先の選択を高める交流の活発化
 - 三重県の魅力の情報発信・プロモーション
 - 地域交通拠点までの交通網の充実
- ④若年層・子育て世代の定住を促す働く場・子育て環境の創出
 - 若年層の働く場の確保のための地域一体で行う採用活動等の支援
 - 子育て中の女性が働きやすい職場づくり(セミナー開催、相談窓口設置)
 - 空き家の利活用など住宅取得の支援
- ⑤高齢者も安心して暮らせる生活環境の充実
 - DXを活用した医療・健康管理の向上やコミュニケーション促進の環境づくり
 - ラストワンマイル配送や新たなモビリティ活用による移動手段の確保

戦略2 新たな玄関口からはじまる観光交流の拡大

現状と課題

- 本県における日本人延べ宿泊者数はコロナ禍前を超えているものの、外国人延べ宿泊者数は令和6年の日本全体の訪日外客数が過去最多を記録するなか、コロナ禍前まで回復していない状況にあります。
- 国内における魅力度の都道府県ランキングをみると、三重県は21位と中位に位置している一方で、市区町村ランキングでは伊勢市や志摩市が上位にランクインしているなど、三重県内にも魅力度の高い地域も存在します。
- 訪問率の低さの要因の一つとして、空港や新幹線の高速交通が県内で接続していないこともあげられます。
- また、交通が便利になると観光客の増加が期待される一方、日帰り旅行者が増え、宿泊客が減ることも懸念されます。

図 訪日外国人訪問率の都道府県ランキング



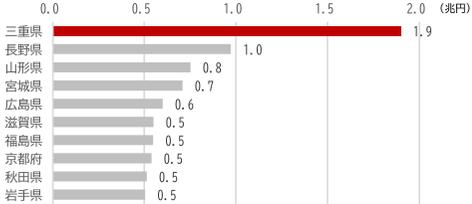
出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」（2023年調査発表）

戦略3 新たな玄関口から生まれるビジネス交流の拡大

現状と課題

- 三重県の電子部品・デバイス・電子回路製造業の製造品出荷額等は、全国1位となっています。
- 三重県と就職支援協定を締結している大学のUターン就職率は3割程度で推移しています。
- ワークेशनに利用している都道府県ランキング（2022年）は三重県が2位となるなど、三重県のワークेशन先としてのポテンシャルは高いことがうかがえます。

図 電子部品・デバイス・電子回路製造業製造品出荷額ランキング



出典：経済産業省「2023年経済構造実態調査製造業事業所調査」

取組1 クリエイティブな人材や企業をひきつける交流空間を創出する三重に

- | | |
|-----------------------------------|---|
| ①地域産業の情報発信やビジネス交流の拠点となる機能の整備 | <ul style="list-style-type: none"> ● 首都圏のビジネスパーソンとのマッチング機会の創出 ● 空きオフィスの活用など地域産業の情報発信機能やコワーキングスペースの整備 |
| ②高速通信ネットワークなどのデジタルインフラの整備 | <ul style="list-style-type: none"> ● Wi-Fi設備の設置やローカル5Gの敷設、衛星ITオフィスへの通信インフラの整備 ● 既存の情報システムやネットワークの安定運用、適切な情報セキュリティの確保 |
| ③サテライトオフィス、シェアオフィス、ベンチャーオフィス環境の提供 | <ul style="list-style-type: none"> ● サテライトオフィスやシェアオフィスの設置 ● オフィス環境提供とあわせた創業支援の実施 ● 都市圏からの滞在時に副業に活動できるビジネス拠点の確保 ● 従業者や研究者のストレス軽減やリフレッシュできる環境整備 |

取組2 大都市圏の多様さと地域をつなげ新たな産業・雇用を創出する三重に

- | | |
|--|---|
| ①スタートアップや新規事業の創出・業態転換等を支援するインキュベーション施設整備 | <ul style="list-style-type: none"> ● 既存のインキュベーション施設の活用と成長を促す仕組みづくり ● 空き店舗を活用したチャレンジショップなどの仕組みづくり |
| ②高付加価値型産業や成長分野となる可能性のある研究所・産業の誘致・促進 | <ul style="list-style-type: none"> ● 観光と連携した産業観光の推進（地場産業や農産物等の活用） ● 首都圏とのアクセス利便性の良さのPR ● 立地を促す優遇税制措置の導入、国際的なビジネス展開の支援、研究機能の立地・強化を図るための制度導入 ● 高付加価値型産業に必要なスキルを持つ人材育成 ● 生産拠点がある強みを生かした研究所の誘致・設置 ● 半導体産業の集積を生かした企業や研究開発拠点の誘致 |
| ③革新的・先進的技術やサービスの社会実装実験場所の提供 | <ul style="list-style-type: none"> ● 都市部では困難な社会実装に向けた実装エリアの提供、高専・大学等の実証の場所の提供 ● 資金面・人員面での研究協力による投資リスクの大きい研究開発に挑戦する企業の誘致 |
| ④公設試験研究機関のサテライト施設の誘致 | <ul style="list-style-type: none"> ● 既存公設試験研究機関の機能拡充・活用 ● 気象（地震・雨）をテーマとした研究の機能誘致 ● 林業が盛んな地域における花粉症対策の研究施設の整備 |

取組3 行政・企業・高等教育機関の機能移転やバックアップの拠点となる三重に

- | | |
|---------------------------------------|---|
| ①防災を意識した行政・企業・高等教育機関の機能移転、バックアップ拠点の誘致 | <ul style="list-style-type: none"> ● 企業の資産であるデータ関連のバックアップ拠点（特化型のデータセンター）の整備 ● 文化庁のような省庁の一部の誘致 |
|---------------------------------------|---|

取組1 もっと身近に便利に旅を楽しむ三重に

- | | |
|-----------------------------------|---|
| ①県内全域を対象とした総合交通・観光案内の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ● 県内の周遊に繋げる交通案内の充実 ● 県内各地域の交通・観光情報のリアルタイムの共有 |
| ②広域MaaSの活用による情報提供やワンストップ予約・決済等の提供 | <ul style="list-style-type: none"> ● 鉄道ネットワークにおける交通系ICカード化の促進 ● 複数の交通機関で使えるクレジットカード決済の仕組みや一体的に予約ができる仕組み |
| ③リニア三重県駅や地域交通拠点の独自性・魅力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ● 拠点周辺の資源を活用した体験メニューやイベント開催等の魅力発信 ● 地域ブランドとなる地場産品の販売場所の拡大 |
| ④地域交通拠点を中心とした観光地までの交通ネットワークの構築 | <ul style="list-style-type: none"> ● 既存交通インフラの活用やそれらを補完する新たなモビリティの導入 ● バス路線の再編・集約、地域交通拠点と観光地間の移動環境の充実 |
| ⑤観光地内のサイズ感に応じたシェアリング型移動サービス | <ul style="list-style-type: none"> ● レンタカー、シェアサイクルなど、シェアリング型移動サービスの行政域を越えた広域的導入 |

取組2 リニア駅から魅力ある滞在型・周遊観光の旅を提供する美し国三重に

- | | |
|----------------------------------|---|
| ①東海道や旧街道等を切り口とした観光エリアの形成 | <ul style="list-style-type: none"> ● 東海道や旧街道と地域資源の結びつけによる周遊の促進 ● 既存鉄道を活用した周遊の促進 |
| ②当地ならではの地場産業とコラボしたPRの実施 | <ul style="list-style-type: none"> ● 地場産業と特産物をセットにした商品開発・PR |
| ③観光コンテンツの組合せによるプロモーションの展開 | <ul style="list-style-type: none"> ● テーマパーク、公園、夜景、お祭りなど観光資源を活用したプロモーション・集客資源間のゾーン形成 ● 自然、文化、名所、スポーツ、古道、街道、まちなみ、神社仏閣など点在する共通資源や組合せによる資源の魅力向上 |
| ④周遊観光を可能にする旅行者のニーズに合わせた二次交通の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ● 鉄道との乗換が便利な二次交通の充実、ライドシェアの推進、既存コミュニティバスの観光への活用 |
| ⑤インバウンド向けのプロモーションと多言語対応施設の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ● 花火大会や祭りなどの開催時期に併せたメニュー開発とプロモーションの実施 ● 多言語対応（案内の充実、人材の確保・育成） |
| ⑥三重ならではの体験コンテンツの充実 | <ul style="list-style-type: none"> ● 閑散期に提供できる体験コンテンツの充実、風土・文化の活用 ● 工芸、グルメ、アクティビティ（登山、サイクリング等）の体験ツアーの造成 |
| ⑦プレジャーを促進するための取組やプレジャー用観光メニューの充実 | <ul style="list-style-type: none"> ● プレジャー用観光メニューの開発、地域交通拠点におけるプレジャー機能の導入 |
| ⑧滞在型観光を促す受入体制の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ● 既存宿泊施設の連携・活用、民泊や農泊など地域や繁閑にあわせた受け入れ体制の充実 |

5 戦略を支える基盤づくり

取組1 道路ネットワークの整備

「地域交通拠点」間の高規格道路等の充実

- 高規格道路のネットワーク強化（新名神高速道路、近畿自動車道紀勢線、東海環状自動車道、四日市インターアクセス道路、鈴鹿亀山道路、名神阪連絡道路、伊勢志摩連絡道路、四日市湾岸道路など）
- 主要幹線道路の整備（国道1号（北勢バイパス、関バイパス）、国道23号（中勢バイパス、鈴鹿四日市道路）など）

取組2 鉄道ネットワークの強化・充実

既存鉄道の利便性の向上

- 交通系ICカード化やタッチ決済、タッチレスやオンライン認証乗車等の可能エリアの拡大や導入
- 複数路線鉄道駅の乗換利便性の向上
- 鉄道間の乗り継ぎダイヤの調整

既存鉄道の速達化や多頻度運行

- 特急運行・直通運行による速達化
- 需要創出による多頻度運行

取組3 新たな二次交通ネットワークの形成

リニア発着に合わせた定時性のある交通ネットワークの構築

- リニア発着にあわせた接続（ダイヤ、時間の読める道路など）
- 地域交通拠点とのシャトルバス運行

高速バス路線開設

- 名古屋駅直通バスの運行拡充
- 高速バス路線の充実

地域交通拠点周辺の次世代モビリティ・システムの導入

- 地域交通拠点から観光地までの電動キックボード等の次世代モビリティの導入

地域交通拠点エリアを連結する自動運転モビリティの導入

- 地域交通拠点と観光拠点間や近接する拠点間等の自動運転の導入
- 太平洋岸自転車道やサイクルレインの環境整備や機能の充実
- 道路環境、サイクルステーションなどの充実

地域交通拠点

- 県内各地域の玄関口となる交通結節点で、地域の施設を結ぶ様々な交通手段の接続・乗継拠点



P2

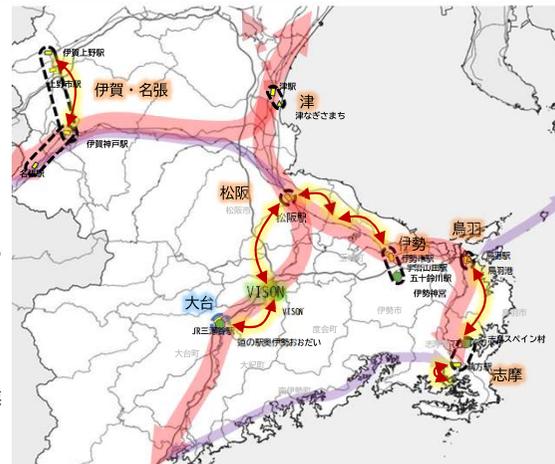
都市と自然のハイブリッド環境を生かした産業振興と移住・定住の促進プロジェクト（北ブロック）

- （戦略1）
- ✓ 二地域居住適地としてのブランド化・首都圏へのPR
 - ✓ 移動が便利な自然に囲まれた暮らしの提供
 - ✓ サードプレイス環境の提供
- （戦略2）
- ✓ 東海道や旧街道を巡る観光ルートの提供
 - ✓ 鉄道乗り放題の周遊プランの形成
 - ✓ キャンプ場やスポーツを活用した滞在型観光の提供
 - ✓ 観光情報案内など、伊賀-伊勢志摩間の周遊コースの提案
 - ✓ 新名神高速道路、名阪国道、関西本線等を生かした滋賀・京都・奈良方面とのイベント開催や情報発信等の広域観光連携
 - ✓ 東海環状自動車道を活用した岐阜方面とのイベント開催や情報発信等の広域観光連携
- （戦略3）
- ✓ 副業向けのビジネス環境の確保
 - ✓ 半導体、コンビニート、化学関連のR&D機能の誘致
- （基盤づくり）
- ✓ 地域交通拠点からの二次交通の充実（近鉄四日市-JR四日市、津駅-津なぎさまち間等）
 - ✓ 品川駅や名古屋駅における北勢、伊賀への交通・観光案内



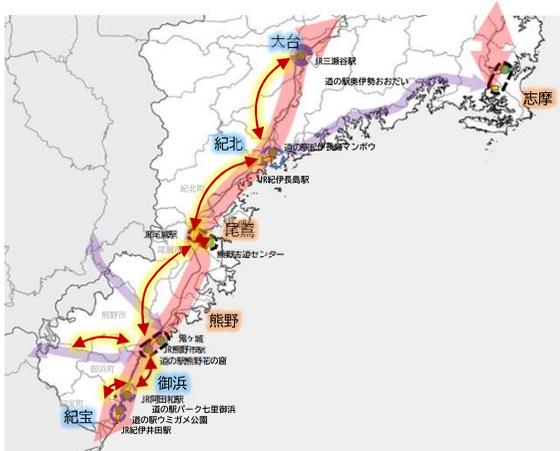
お伊勢参りからはじまる自然、歴史、食のみえを隅々まで満喫するプロジェクト（中央ブロック）

- （戦略1）
- ✓ 伊勢志摩の自然を生かしたワーケーションや移住環境の充実
- （戦略2）
- ✓ 観光列車の運行など奈良・大阪方面の広域観光ルート化
 - ✓ リニア・在来線・船・バス・東海道新幹線などの広域的な観光周遊ルートの形成
 - ✓ 東紀州方面との連携強化（伊勢志摩絶景めぐりコース、滝巡りコースの設定とPR）
 - ✓ 伊勢志摩国立公園内におけるアクティビティ体験の充実
 - ✓ 街並みと食（グルメ）による伊勢神宮につながる新街道の形成
 - ✓ 三重県のブランドの食材を通じた食の提供と発信
- （戦略3）
- ✓ リニア開業を契機とした世界的ブランドをもつ企業の情報発信と誘客
 - ✓ 空飛ぶクルマなどの社会実装実験場の提供
- （基盤づくり）
- ✓ お伊勢参りから円滑な周遊のための交通連携軸の強化
 - ✓ 太平洋岸自転車道やサイクルトレインなど快適に自転車で周遊走行するための環境整備や機能の充実



固有の歴史・自然を生かした観光起点による産業振興と移住・定住への展開プロジェクト（南ブロック）

- （戦略1）
- ✓ 歴史・自然とふれあう移住体験メニューの提供
- （戦略2）
- ✓ 尾鷲駅-熊野古道センターを起点にした東紀州及び隣接地域への観光展開
 - ✓ 滞在型観光を促す民泊・農泊といった受入体制の充実
 - ✓ 拠点における多言語対応
 - ✓ 伊勢志摩方面との連携強化（伊勢志摩絶景めぐりコース、滝巡りコースの設定とPR）
 - ✓ 和歌山方面（熊野本宮大社、新宮、太地等）とのイベント開催や情報発信等の広域観光連携
 - ✓ 奈良方面（吉野）とのイベント開催や情報発信等の広域での観光連携・展開
- （戦略3）
- ✓ 熊野古道センターのサードプレイスとしての活用
 - ✓ 気象（地震・雨）をテーマとした研究の機能誘致
 - ✓ 空き家等を活用した観光業、林業、水産業等、当地にちなむ「ワークスペース」づくり
 - ✓ 尾鷲の傘、熊野地鶏などの地場製品の活用
- （基盤づくり）
- ✓ 世界遺産-熊野古道を巡礼するための交通支援システムの検討（次世代モビリティ、シェアリング（自動車、電動自転車等））
 - ✓ 太平洋岸自転車道やサイクルトレインなど快適に自転車で周遊走行するための環境整備や機能の充実
 - ✓ 広域的に周遊できるような観光列車の運行



リニア名古屋駅を核とした次世代の交通ネットワーク形成プロジェクト

- リニア品川駅・名古屋駅での三重県各地への交通・観光案内の充実
- リニア名古屋駅から三重を結ぶ鉄道・高速バスへの乗換プラットフォーム間を円滑に誘導する案内機能の充実
 - ✓ 名古屋駅構内の円滑な乗換のための案内整備
 - ✓ デジタル案内案内の整備（スマートグラスや音声AR（拡張現実）への対応など）
- リニア名古屋駅から三重方面-県内交通へのチケットレス移動の拡大
 - ✓ 鉄道各会社、バス、タクシーなど公共交通機関における交通系ICカード化やタッチ決済、タッチレスやオンライン認証乗車等の可能エリアの拡大や導入
- リニア名古屋駅から三重を結ぶ二次交通ネットワークの充実
 - ✓ 各地域交通拠点への直通鉄道やバスの運行（広域的に周遊できるような観光列車も含む）
- 道路ネットワークを活用した拠点間的高速バス自動運転
 - ✓ 県内周遊を促す地域交通拠点間的高速バス自動運転の検討
- 拠点から観光資源等への周遊交通の充実
 - ✓ 地域交通拠点から観光施設等を周遊するためのシェアリング（自動車、電動自転車等）による移動手段の多様化



7 今後の検討方針

- 全線開業に向けて
 - ✓ 最終報告に向けては、先行開業を見据えた取組の充実を図るとともに、全線開業のリニア三重県駅を核とした交通ネットワークや、まちづくり（リニア三重県駅周辺に必要な機能など）に関する取組、リニアによる広域災害リスクの分散機能、リニア三重県駅周辺の防災機能確保など全線開業のインパクトを県内全域に拡げる取組の検討を進めます。また、ロードマップ等の作成にも取り組みます。
 - ✓ 検討にあたっては、住民や事業者の意向を把握するとともに、補完データを活用して内容の充実を図っていきます。